

2022年5月26日 全7頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/5/26号）

個社データ・業界統計で足元の消費動向を先取り¹

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

[要約]

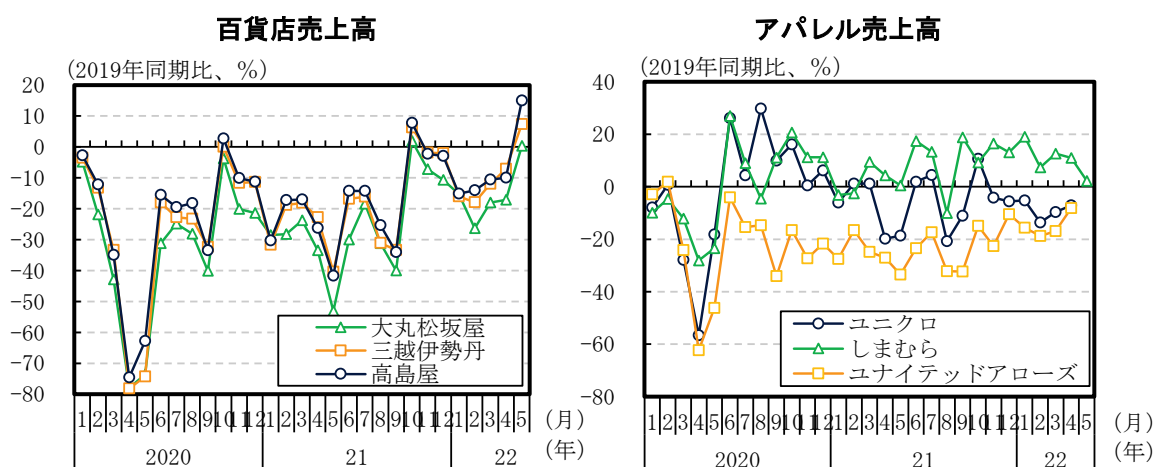
- 2022年4月の消費は3月から緩やかに回復したとみられる。財消費は、業種によってまちまちであった。百貨店売上高は前月から横ばいだった一方、アパレルではゴールデンウィークを控えた買い替え需要や気温上昇に伴い好調だった。サービス消費では、月後半にかけて人出が回復したことで旅行や宿泊がおおむね良好であった。
- 5月の消費は回復基調を維持するとみている。月前半の消費について、百貨店売上高は新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同期比でプラスに転じ大幅に改善した。新幹線の輸送量も、西日本管内や東海を中心に増加が確認された。ただし、小売店・娯楽施設の人出を見ると、月上旬は感染拡大前の水準まで回復したものの、その後はゴールデンウィーク前の水準に戻っており、回復は緩やかなものとなろう。

¹ 「METI POS 小売販売額指標 [ミクロ]」（経済産業省）の公表停止に伴い、4月公表分から一部図表を変更。

＜小売関連＞

- ◆【百貨店】 大手 3 社の 4 月の既存店売上高伸び率は新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年同月比で約 1~2 割減。月前半は人出の回復が足踏みし、マイナス幅は 3 月から変わらず。5 月前半は 2019 年同期比で 2 割ほど増加。大型連休で外出機会が増加し、消費意欲が改善した。
- ◆【アパレル】 4 月のアパレル既存店売上高の伸び率は、主要 2 社が 3 月から回復。気温上昇に伴い春物や初夏物、夏物が売上を伸ばした。新生活需要が発現し、外出需要が回復。5 月は引き続き外出需要が好調だが、関東以西での月中旬以降の天候不順により、しまむらは伸び率が鈍化した。

図表 1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2022年5月は15日まで。

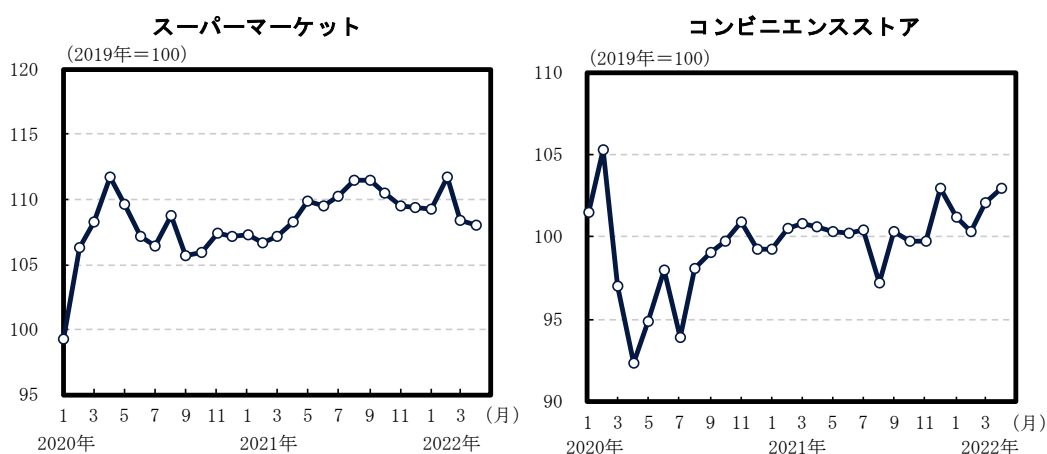
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 4月の売上高は前月比▲0.3%（大和総研による季節調整値）。日配食品などが小幅に増加するも、青果や水産といった生鮮食品が減少。
- ◆【コンビニエンスストア】 4月の売上高は前月比+0.9%（大和総研による季節調整値）。サービスや非食品が全体を押し上げ。

図表 2：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

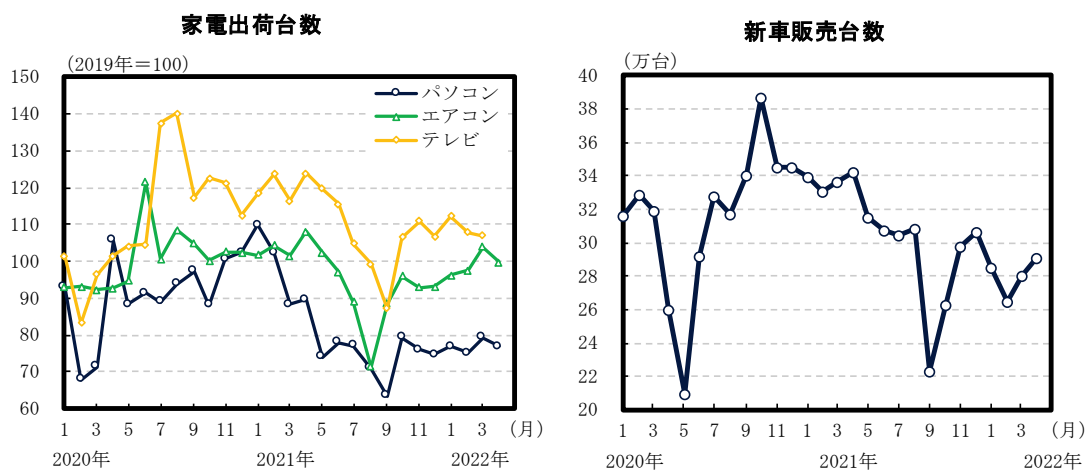


(注) 既存店ベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会、経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】 4月の出荷台数はパソコンが前月比▲3.3%、エアコンが同▲4.1%（いずれも大和総研による季節調整値）。
- ◆【自動車】 4月の新車販売台数は前月比+3.5%（大和総研による季節調整値）と前月から小幅に増加。生産調整の影響で回復ペースは鈍いものの、底打ちの兆しが見られる。

図表3：家電・自動車の売上高



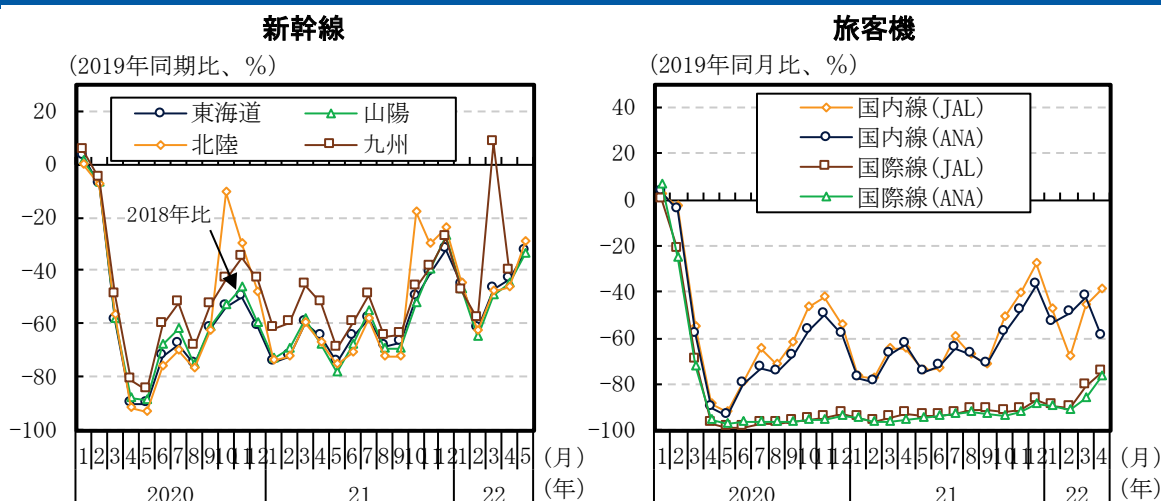
(注) 大和総研による季節調整値。テレビ出荷台数は3月分のデータ。

(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より
大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】 5月前半の輸送量は2019年同期比で3~4割減。伸び率は3月から上昇傾向が見られる。まん延防止等重点措置の全面解除に伴い、西日本管内や東海で移動需要が持ち直す。
- ◆【旅客機】 4月の国内線輸送量はまちまちな結果となり、2019年同月比約4~6割減。国際線は同8割減程度と、低水準ながらも回復の兆しが見られる。5月以降は、段階的な出入国制限等の緩和を反映し北米・アジア方面の渡航需要が拡大し、国際線では計画に対して運航率を3割ほどに引き上げる予定だ。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況

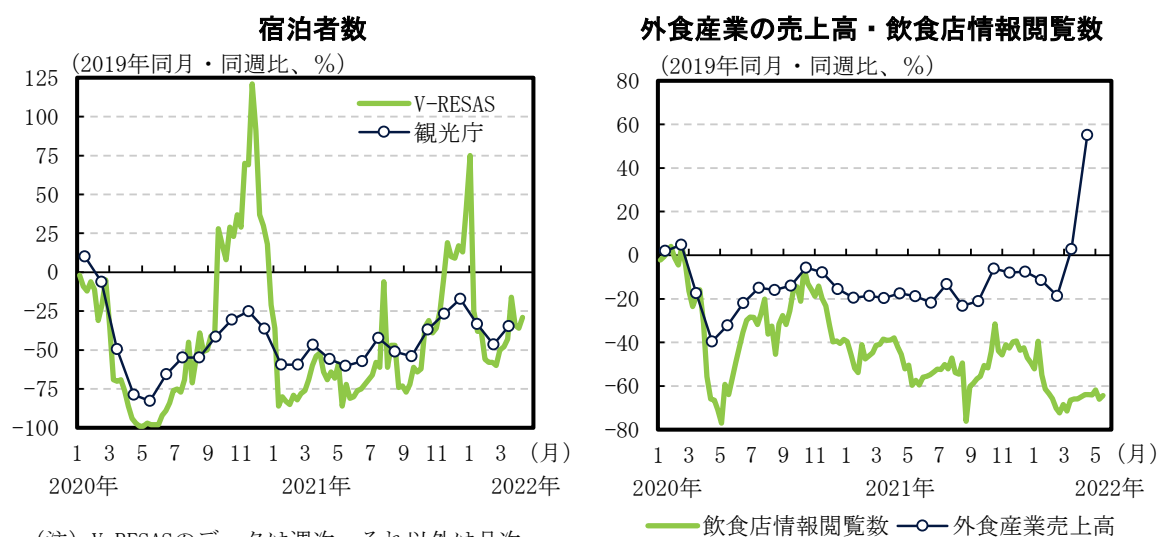


(注) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。2022年5月の東海は15日まで、山陽・北陸は14日まで。九州は4月分のデータ。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

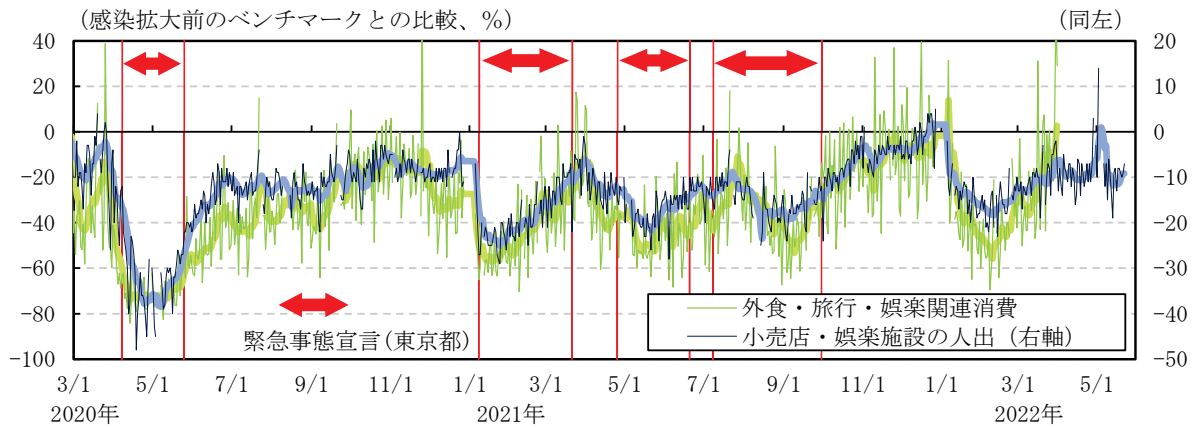
- ◆【宿泊】 3月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比▲35%と2月からマイナス幅が縮小。感染状況が改善したことが需要の回復に寄与したとみられる。V-RESAS（宿泊開始日ベース）で見ると、4月上旬も回復傾向が続いている。
- ◆【外食】 3月の外食産業の売上高は2019年同月比+3%とプラスに転じ、4月は同+55%と大きく回復した。5月上旬の飲食店情報閲覧数は、回復ペースが鈍く、横ばい圏で推移している。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



<参考：人出・高速道路交通量>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 5/22）と外食・旅行・娯楽関連消費

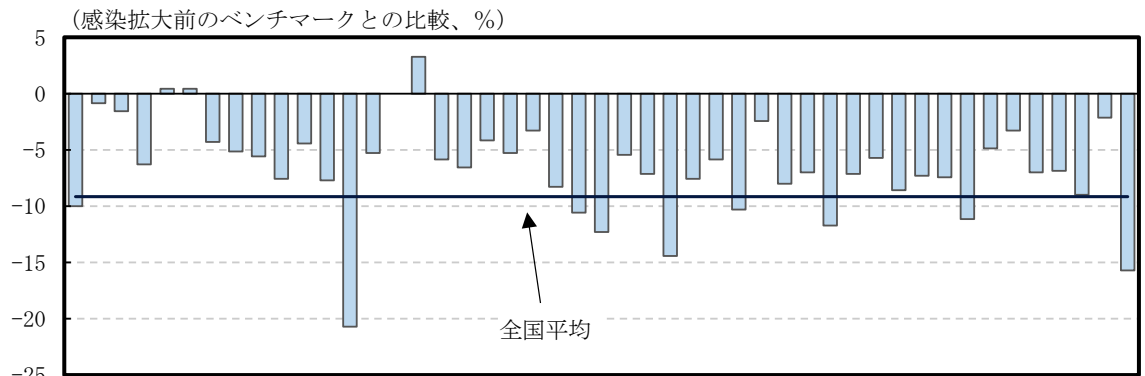


(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出（5/16～5/22 平均、都道府県別）

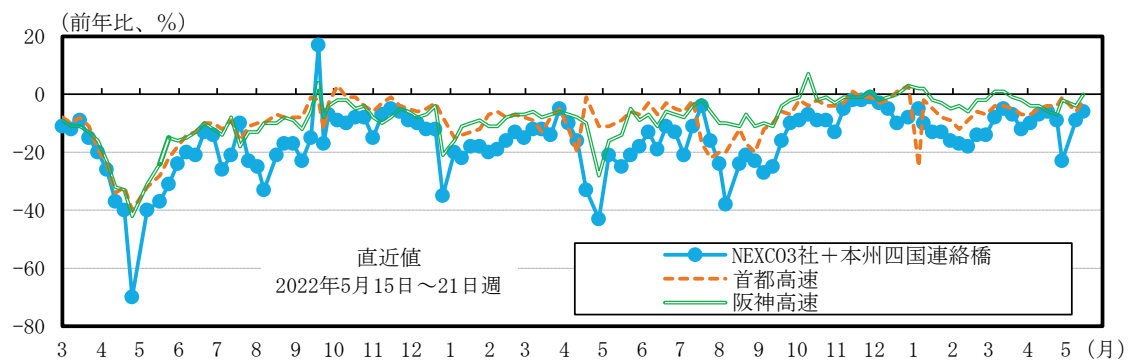


北青宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖
海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児繩
道 川 山 島

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 7：高速道路交通量

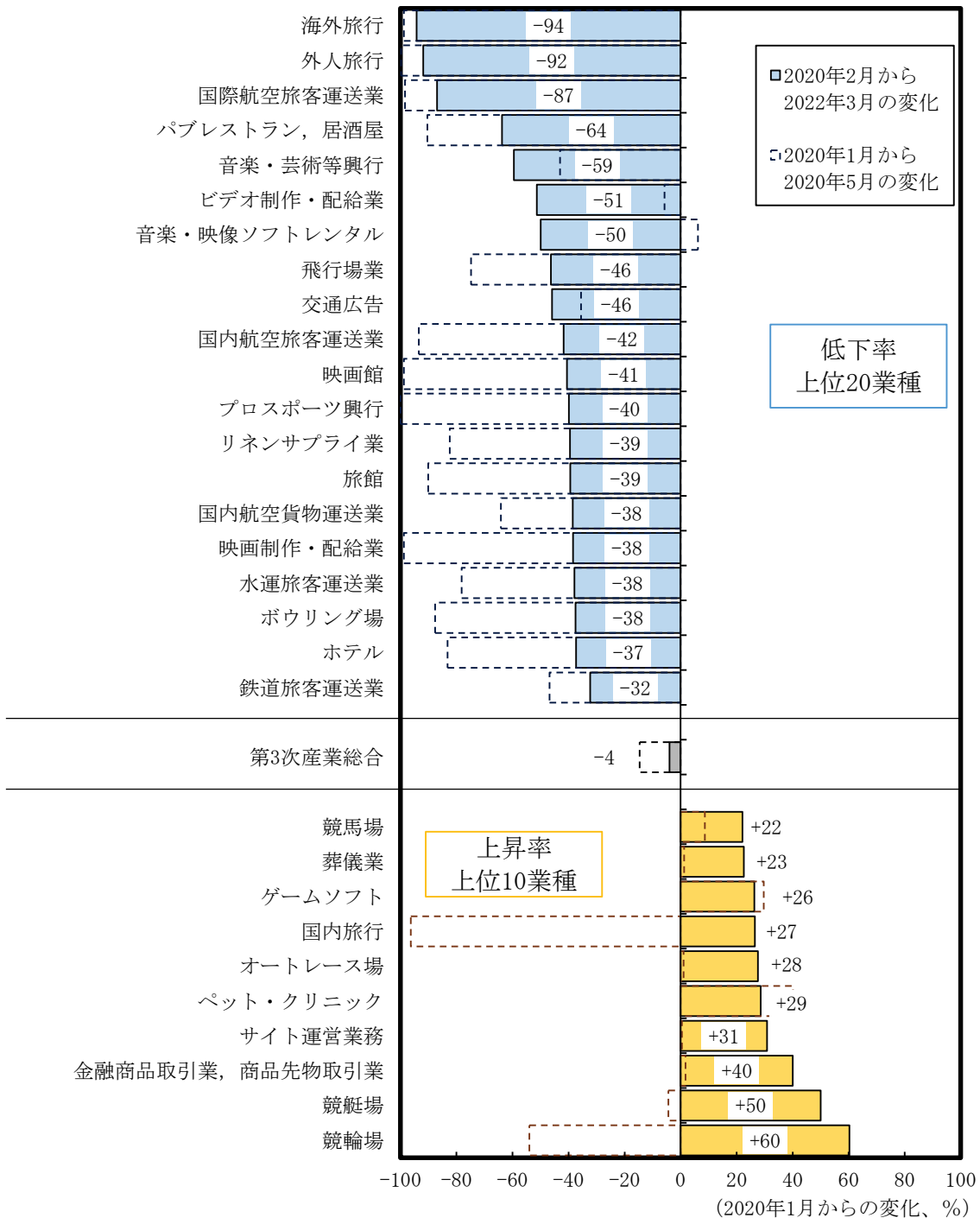


(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

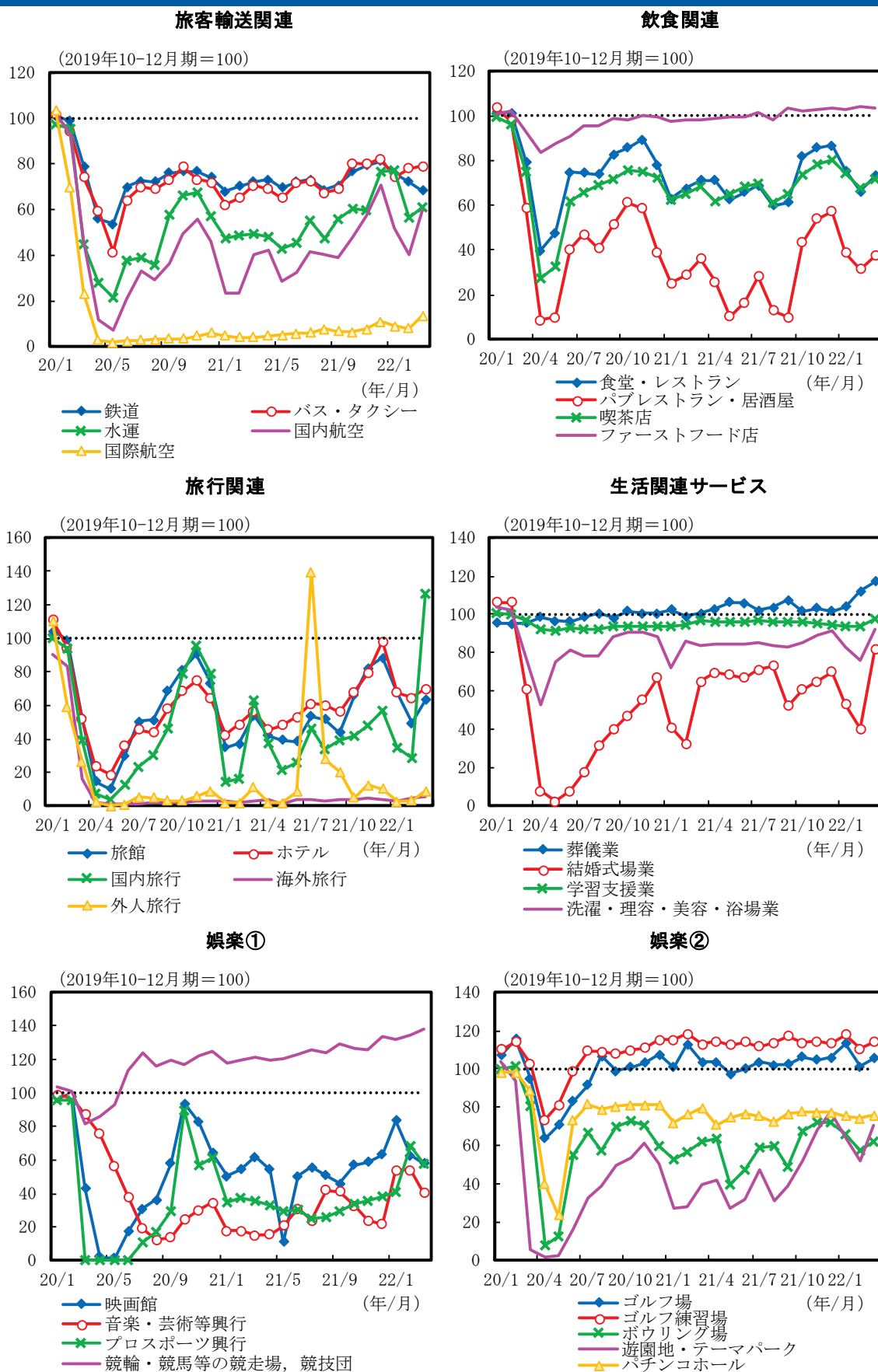
図表 8-1：第3次産業活動指数（2022年3月）



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2022年3月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 8-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成